

植木 あずさ（香川大学教育学部附属坂出中学校三年生）

“Yes.” “No.”とてもわかりやすく、相手に気持ちをはっきり伝わる英語。しかし、その間の微妙な気持ちを英語ではどのように表現すればいいのだろうか？ 的確な適当な単語がみつからない。

私は今年の夏休み、アメリカへ短期留学し、ホームステイした。ホストファミリーとの日常生活の会話の中で、度々そんな思いをした。うまく言葉にできない。私の今の思いが、はたして相手に通じているのだろうか？ もどかしいと感じたことは何度もあった。日本語ならば伝えきれるのに……と。

例えば、基本的なところで、好きか嫌いか？ と尋ねられたら、どう答えるだろうか。

I don't like very much. (あまり好きではない) といった言いまわし程度。日本語なら、もっと色々な言いようがあるだろう。とにかく、同じ意味あいでも、言葉の数は多いし、様々な表現の仕方もある。その場に応じ、細かく言い表せる。

英語の語いには、ニュートラルな部分やらファジーな部分が、どうやら少なそうだ。逆に日本語には、白黒はっきりというよりは、むしろ曖昧な部分が多いようだ。

日本語で、はっきり言ってしまうと、失礼になるところでも、英語では問題なく、どちらかというところ、どっちつかずの受け答えだと、困惑されてしまうことすらあるのだから。

また、こんなこともあった。ゴールデン・ゲート・ブリッジをクルージングした時だ。私は市の派遣留学生として十五人で船に乗っていた。すると、現地のアメリカ人が、すれ違いざまに叫んだ。

“Do you enjoy?”

とても簡潔だけど、すごく素直な表現で、私達はまさに、その気持ちだった。皆は叫んだ。

“Yeah!” (手が自然と挙がった)

この一言に尽きた。この時、私はアメリカを体感した。日本じゃこんな場面、想像などできょうか？ ストレートに気持ち伝え合える。サンフランシスコのストリートでは、行き交うアメリカ人達が、“Hi!!” と次々と声をかけて来る。軽く手を振り微笑みながら。彼らのそんな言葉は、力強く私の体の中へとしみこんでいき、心が躍動した。

国が違えば文化が違う、言葉が違うが心は通い合える。言葉って素晴らしいし不思議だ。世界の広さを感じ、世

界の民族と言語に感動した。私は日本人なんだ、とこの時思った。

今や国際時代。アメリカでも日本の看板はあちこちにあつて、日本語の海外への浸透をこの目で見て、何だかうれしくなった。

ホストファミリーは、日本をひいきにしてくれていて、日本茶を飲み、日本車に乗り、日本犬を飼い、玄関には仏像、部屋には何と「平安」「わび」「さび」といった書道の掛け軸が壁にかかっている。それを見た瞬間、なつかしいと同時に、ほっといやされた。

「わび」「さび」「これこそが日本を象徴とする言葉。日本語の魅力とは、まさしくこれだと思う。繊細で控え目、深みのある言葉。いにしへの歴史ある美しき言葉。古典など昔の日本語の響きはまた、まるで楽器を奏でるかのようになめらかで、耳に優しく心地よい。趣があり、情緒豊かだ。かけがえのない日本ならではのものと私は思っている。

私がアメリカで、何とも言い表し難かったほんの少しの気持ちの差、ニュアンスを伝えるべく単語が、日本語には存在する。そんな日本語の魅力は、日本のみならず、外国にも影響を与えていることがわかった。

アメリカにて学び、アメリカをより理解できたが、それ以上に、日本の良さが改めて見えてきた。毎日何気なく使っている母国語が異国へ来ると、どんなに尊く、すごいパワーを持っているかを実感。日本語は、日本人の誇り。アメリカ滞在を通し、最も私が感じたことだ。これを機に、日本語に魅かれる異邦人がいると知った今、私は日本人として国際人として、日本語の魅力を広く伝えていけるような人になりたい。そう思った。

そして、大好きな日本語をこれからも、私はずっとずっと愛し続けていきたい。世界一の日本語を。